

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第 10 号



◀ 埼玉県立本庄高等学校の先生や生徒たちが、農業体験に訪れた遠藤さんの畑でジャガイモを収穫しました。後日学園祭の復興バザーで販売し好評だったそうです

今月の
ひと

次世代へつなぐ農業を

三本塚で再開した農家

マイナスからのスタートだけど、それをチャンスに！

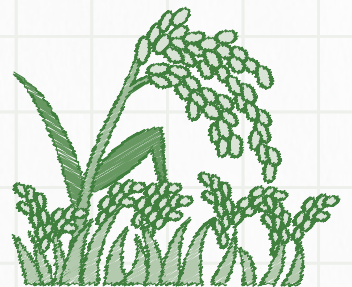
「俺があと少し年をとっていたら、もう農業は諦めていたかもしれないなあ。この震災で何もかも失って、もう1度、米を作ろうという気力は湧かなかったと思うよ」と語るのは、三本塚で農業を営む遠藤喜一さんです。

遠藤さんは今年4月に自宅のリフォームが完了して三本塚へ戻ってきました。震災で自宅や農機具、機械を失った海沿いの農家にとって、自宅再建や農業の再開には、資金調達や後継者問題など、様々な壁が立ちはだかっています。

「でも幸いな事に、三本塚だけでも、農業の後継者が7~8人いるんですよ。これは、大きな財産だから、次の世代により良い農業環境を渡さなくちゃならないんだよね。ほ場整備や各種の支援制度を利用することが、チャンスになれば良いと思うよ」

「農家には『畑のからだ』と『田んぼのからだ』があるんだよ」と、遠藤さん。

「俺も以前は畑中心に仕事をしていたから、田んぼに入るのがおっくうだったんだ。でも、田んぼの仕事をやり始めると、今度は畑がおっくうになってくる。理由は分からないけど、皆そうだと思うよ。きっとこれからの若い農家も畑か田んぼか、どっちかのからだになるのさなあ」
今日も遠藤さんは、青いトラクターに乗って田んぼに向かいます。



2012

9月

若松会奮闘記



7月1日の遠足。国営みちのく社の湖畔公園にて

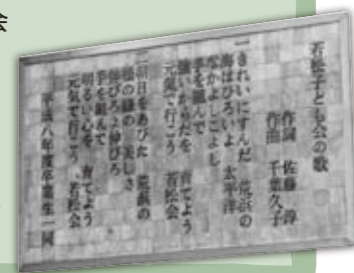
若松会のあしどり

「若松会」は荒浜の方を中心に構成された、借上げ民間賃貸住宅（以下、みなし仮設）住民によるグループです。支援が届きにくい状況を、自分たちの手で改善してきた、その足跡をご紹介します。

若松会結成

個別に避難した方や、みなし仮設住まいの皆さんには、支援物資がなかなか届かなかったことから、同じ境遇の人たちで入手した情報を共有し、支援団体に直接交渉し、届いた物資の分配を始めました。ここで先頭に立って動いたのが、会長の早坂えみ子さん、副会長の濱口裕子さんです。お2人はお子さんが荒浜小学校に通っていた際に一緒に役員を務めていたご縁です。ここに早坂さんの娘さんである寺嶋渚さんがもうひとりの副会長として加わり、3人を役員として9月15日、若松会を立ち上げました。口コミのネットワークで同じ境遇の方々が集まり、現在は25世帯・70名が在籍しています。

若松会の名称は荒浜小学校の児童会である「若松子ども会」が由来になっています。若松子ども会の歌のボードは、震災前と変わらず体育館に掲げられています



会長の早坂えみ子さんに 若松会について質問しました！

Q 団体を設立したのはなぜですか？

A 支援物資の分配の際に、同じ境遇の知り合いに声をかけました。その後、皆さんとの関係が継続し、みなし仮設入居後もプレハブ仮設の自治会と同じように、支援の受け入れ窓口、イベントの主催ができるよう団体を立ち上げました。

Q うれしかったことは何ですか？

A イベントの後など、皆に「ありがとう」の言葉をかけてもらえたときは、大変だったことも忘れてしまいます。

Q 運営で大変だったことはなんですか？

A 運営は思ったより大変でした。私たちの現状を伝えたいと、社会福祉協議会主催の復興の輪ミーティングに参加した際は、たくさんの方々の前で話したり、慣れないこともしなければなりません。

Q 今後団体を立ち上げようと考えている方へのアドバイスはありますか？

A ゴールはいつになるかわかりません。役員は任期を定め、皆さんの協力を得ながら、続けていくことが大切です。



若松会役員の皆さん。左から副会長の寺嶋渚さん、会長の早坂えみ子さん、副会長の濱口裕子さん

若松会の会長は今後、早坂さんから娘の寺嶋さんへ引き継がれます。寺嶋さんは「まだまだ支援の手が足りず運営は難しいですが、皆でいっばい楽しい思い出を作っていきたい」と笑顔を見せてくれました。

3.11～それぞれ

若松会のメンバーたちは、介護の必要な高齢者や、病気のご家族がいる、ペットと一緒になどの理由で、震災直後に避難所に入れなかった方々です。親戚の家に間借りしたり、車の中で寝食するなどしていたため、いち早く住まいを確保するために、個別に民間の賃貸住宅を借りて生活を始めました。

初めてのイベント開催

「皆の顔を見たい、楽しいことをやりたい」そんな思いから、イベントを自主企画しました。最初は12月のクリスマス会。欲しい支援内容を自ら洗い出し、マッチしそうな団体に声をかける。何から何まで全てが手探りのなか始まりました。

定番の子どもたちによるダンス！次は新しい曲に合わせたダンスを考えているぞう



子どもから高齢の方まで、皆が楽しめる企画やゲームを考えるのに頭を悩ませています。イベント前日は夜中まで台本作りをしていますよ！／寺嶋さん

支援者との出会い

若松会を多方面でサポートをしているのがNPO法「子ども育成支援協会」です。早坂さんが知人から「支援物資を配り事務所が近くにある」としたことがご縁のきっかけになりました。生活雑貨や布団など支援の必要な物心両面を支えて現事務所に入るの会社の一角を開放してくれました。



NPO法人 子ども育成支援協会 代表 板橋知春さん

七郷地区出身の私にとって、若松会の皆さんは身近な存在です。そんな皆さんの活動を少しでもお手伝いできればという気持ちで一緒に歩んでいます。10年、20年後に「折れることなくやってきてよかった」と言い合いたいですね。

悩んでいるときに「大丈夫！大丈夫！」って声をかけてくれた板橋さんに励まされまして息子のような存在です！

助成金を活用したビッグイベント！

「狭い仮住まい、震災後の閉塞感、日常のいろいろなものから開放されたい！」そんな思いから、7月1日にバスツアー遠足を企画。このイベントでは会員に限らず荒浜小学校の児童とその家族に声がけして、そのほとんどの方、54名が参加しました。資金には仙台市の被災者交流活動助成制度*を活用しました。



事務所開設

NPO法人市民福祉団体全国協議会の協力で沖野に事務所を開設しました。誰でも気軽に立ち寄れる集会所を目指しています。

参加者を募集する方法には頭をひねりました。会員の荒浜小学校児童にイベントのお知らせを持たせ、全児童に手渡ししてもらったんです。／早坂さん

*被災者交流活動助成制度…東日本大震災の被災者コミュニティ形成に向けた取り組みを行っている町内会などの団体に対して、その活動を支援する助成事業です。区のまちづくり推進課で随時受け付けています。(受け付け期間:平成25年1月末まで)

これから

子どもたちの笑顔を引き出すお楽しみイベントを今後も月1回計画。また、集会所のように皆が集まれる事務所を活用し、震災以前のようにお茶を飲みながら、語り合う「深沼っこお茶のみサロン」を週に1～2回行う予定です。 Web: <http://wkmt.net/>

1日(日) ふるさとの海岸清掃
(深沼海岸)



小雨がぱらつくなか、深沼海岸に集まったのは荒浜地域住民とボランティア約150人。この日は海岸沿いの松林を清掃しました。津波によって運ばれたガレキや、伸び放題の雑草など、準備したゴミ袋があつという間に足りなくなってしまうほど熱心に活動しました。

1日(日) 若松会のバス遠足
(国営みちのく杜の湖畔公園)



荒浜の方々を中心とした、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々の団体「若松会」がバス遠足を開催。子どもたちは大はしゃぎ。大人も久しぶりの遠足を楽しみました。

10日(火) 日辺カフェテリア
(日辺グラウンド仮設住宅)



コーヒーの香りが漂ってきて、カフェテリアのムードが高まります。本日のランチメニューは、炊き込みご飯と素麺スープにキュウリの酢の物。夏にふさわしくて美味しいランチでした。

11日(水) 手づくりお茶会立ち上げ!
(六丁の目中町西公園仮設住宅)



「はじめまして」の挨拶も聞こえるのは、立ち上がったばかりのお茶会です。編み物、折り紙など思い思いの手作業をしながら茶飲み話を楽しむこの会は、今後も毎週開かれるそうです。

13日(金)~15日(日) 買い物、オークションで大賑わい!
(七郷市民センター)



荒井小学校用地仮設住宅の鶴亀会や卸町5丁目手づくりクラブも出店し、賑わいを見せたのは、復興バザー・フェスティバル。バザーやカフェ、楽天選手愛用品のオークションなど、大盛況の3日間でした。

17日(火) アラスカからの贈り物
(仙台新港)



アメリカ・アラスカ州の漁協から仙台の漁師たちへライフジャケットが贈られました。漁師の1人は「遠くからの支援を受けたからには、また頑張りたい!」と思いを新たにしていました。

22日(日) 祭りだワッショイ! 合同夏祭り
(卸町5丁目公園仮設住宅)



晴天に恵まれたこの日、仮設住宅の駐車場は賑やかな祭り会場に変わりました。卸町5丁目公園仮設住宅、卸町東2丁目公園仮設住宅、六丁の目中町西公園仮設住宅、若松会の皆さんが集まって、盛大な合同夏祭りになりました。

24日(火) 九州からお友達が来ました!
(日辺グラウンド仮設住宅)



六郷小学校と東川登小学校(佐賀県武雄市)の震災支援交流会が開かれました。武雄市は、震災直後から六郷地区へ支援活動を続けていて、その繋がりから、東川登小学校の松尾校長先生と生徒10名がやって来ました。はじめは遠慮がちだった子どもたちでしたが、すぐに打ち解けて楽しいひとときを過ごしました。

28日(土) 草刈りおつかれさまです!
(荒井7号公園仮設住宅)



照りつける太陽の下、仮設住宅敷地内の草刈りに精を出す住民の方々。垣根の周りもすっかりきれいになり、記念の1枚、笑顔ではいっチーズ! 大満足の皆さんでした。

28日(土) 便利お掃除グッズを手づくり
(七郷中央公園仮設住宅)



手芸教室が開かれた集会所では、皆さん和やかにおしゃべりを楽しみながらも、せっせと手を動かします。今回の作品は手袋にアクリル毛糸のボンボンをつけたお掃除グッズでした。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建... 沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体の話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶仙台七夕初日のこの日、メンバーは皆日焼けした顔で、協議にも熱が入りました

8月6日(月)定例会議

- 内容 ● 荒浜伝統行事の継続について協議
- 一般市民へ訴えかける方法を協議

当日の様子 ふるさと再生の意味からも、荒浜伝統の盆行事を継続させるように地域全体で協力する事を話し合いました。また、同じ仙台市民の中でも、震災が風化しつつあることを懸念する意見が多くでました。沿岸住民の現状を広くお知らせする活動が必要であるという認識で一致し、従来の署名活動に加えて、今後は一般市民への広報的活動も検討することとしました。

問い合わせ先: 代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議: 毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

読者からひとこと

● 昨年からずっと続いていたボランティアのイベントが、今月で最終回を迎えました。毎月来て頂けるのを楽しみにしていたのでとても残念です。最近はこのように仮設住宅へ訪れる方が少なくなっているような気がして、少し寂しく感じます。

太白区/門馬さん

● 震災後、いろいろな人との出会いがありました。沿岸部は地域のつながりが深いので、出会った人が実は縁戚だったとか、共通の知人がいたということも多いんです。私は若林区ですが、みらいんのみやぎの版を入手して知人の情報を得ています。

若林区/M・Aさん

● ここ、和田の阿部酒屋には何十年も飲みに来てるんです。店主の八重ちゃんにはお世話になってるのよ。津波の時も、「頑丈だからここの屋上に来い!」って言われて助かったんだよね。今は我慢して苦勞して暮らしている人も多いよね。皆、言いたいことはたくさんあるはずだけど、昔のように仲良く暮らせることを願っているよ。 宮城野区/横浜さん・高山さん

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶サンビアの事務所には少しずつ備品が増えてきました

7月27日(金)定例会議 サンビア会議室

- 内容 ● 移転希望地に関する情報提供
- 協議会事務所の活用について話し合い
- 行政からの情報提供

当日の様子 移転先で希望者の多かった荒井西地区に関して、土地区画整理事業準備委員会との話し合いを持つことが報告されました。また、サンビアの事務所を多くの方々に利用していただく為に、荒浜の婦人の方の集まりなどにも活用してもらおう事を協議しました。行政からの報告として、9月上旬に荒井公共用地の募集に関する説明会を開催する事が提示されました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においてください)
定例会議: 毎週金曜日19:00~ サンビア2F 会議室4

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。



▶独自の取り組みについて笑いながらお話しする八島さん

7月28日(土) 第5回六郷東部地区住まいまちづくり学習会

- 内容 ● 丸森町の農家・八島哲郎さんのお話
- 三本塚のほ場整備に関する情報

当日の様子 丸森町の農家・八島さんは、自営の「いなか道の駅やしまや」を運営しています。収穫したタケノコや干し柿をつかったオリジナル商品を開発販売しています。八島さんの実例や考え方を聞き、「農家は作るのには上手だけど、売るのは下手ですね」の言葉に、集まった人は大きくうなずいていました。小野代表からは、三本塚のほ場整備に関して、白地が25%あり、整備後は畑に換地することも協議していることが報告されました。

問い合わせ先: 代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

被災地レポート

取材地

親子三代続く大工さん (種次地区)

自ら被災しながらも 地域の再建に奔走

「親父の代から、地道に真面目に今までやってきました。こういう震災があつて、地元がこういう状況になってしまったら、家の修繕を多く頼まれてきました。昔からの付き合いがありますから。震災以降、地元優先で仕事を進めてきました。忙しい日々が続いています」と種次の大工さん、相澤竹浩さんは話します。



改装途中にある自宅の一室で、震災当時の話を語る相澤さん

「相竹建業」の代表で、父竹治さんから継ぎました。震災を機に、相澤さんが実質的に現場を指揮するよ

うになり、現在、長男浩也さんを含めて四人の職人を束ねています。名取川の堤防近くにある相澤さんの自宅は、津波が押し寄せたために全壊しました。震災後は避難所暮らしを余儀なくされ、今は車で十分ほど離れた仮設住宅に住みながら、作業所のある自宅に通う毎日です。

津波で作業所が水をかぶったため、ほとんどの仕事道具を失いました。現場に運ぶために軽トラックの荷台に積んでおいたわずかな工具類と材料だけが残され、それらで何とか細々と仕事を再開し、震災後一ヵ月ほど経った昨年四月中旬ごろから本格的に走り出しました。

「一年以上経った今でも、仮設住宅の暮らしには慣れない」と言う相澤さん。相澤さんの家では毎年夏、家族皆で自宅の庭でバーベキューをしながら、名取市閑上地区の花火を間近で見えることを大きな楽しみにしていました。「田舎だから広々とした空間で、気兼ねなくワイワイやりながら楽しんでいたところが懐かしい

ですねえ。せめて来年のお正月には、仮設住宅ではなく、長年住み慣れたこの家で、家族皆でゆっくりと過ごしたいなあ、って思っているんです。小さい事かもしれないですけど、それをすごく楽しみにしているんです」

受け継がれる大工の技で 種次の復興を後押し

高校卒業後から父の下で働き始めた浩也さんは、「震災のあれだけひ

今年7月27日撮影の相澤さん宅の様子



昨年3月27日撮影の相澤さん宅の様子

どい状況でも、悩まずに前向きでやっていた。そこはやっぱりすごいなあ、って思いました。とても頼りがいのある存在です」と語り、父であり師匠でもある相澤さんに尊敬のまなざしを向けています。将来、相竹建業の三代目を目指す浩也さんは、今、大工の道に入り五年目になります。「自分はまだまだです。周りにいる年配の大工さん方から、昔ながらの技術を学ぶことができている。自分には大きな事だと思っています」と、真剣な表情で話します。

津波で甚大な被害を受けた若林区沿岸地域で、親子三代続く大工さんが地元のために汗を流している姿は、復興の大きな後押しとなっているはずだ。



地元の集会所で作業する相澤さん親子の姿。左が長男の浩也さん

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

ハンドケアボランティア募集

被災女性の団体によるボランティア活動です。午前中にプロの講師によるハンドケア法を学び、午後から被災された方にハンドケアを実践します。

対象 18歳以上でボランティア保険加入の方

時・場所 ▼9月12日(水)石巻市万石浦公園仮設住宅 ▼9月17日(月・祝)仙台市あすと長町仮設住宅 ▼9月19日(水)石巻市開成地区第11仮設住宅 ▼9月22日(土・祝)石巻市大橋仮設住宅 ▼9月25日(火)仙台市仙台港背後地6号公園仮設住宅 ▼9月29日(土)石巻市大森地区第2仮設住宅

申込方法 ホームページ申込フォームより

☎ 090-4887-1977 社の都チームドルフィンドリーム(天野)

Web: <http://www.dolphindream.jp/idta/1000project.htm>

出前講座を行っています(無料です)

東北財務局では、お近くの集会所や市民センターなどにお伺いし、金融犯罪被害に巻き込まれないよう、日ごろから心がけてほしいことなどを、分かりやすく説明する出前講座を行っています。お気軽にお問い合わせください。

対象 どなたでも利用できます

講座メニュー ・未公開株や社債などのあやしい投資勧誘

・ヤミ金融や振り込め詐欺

・私的整理ガイドラインや多重債務相談など

☎ 022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)東北財務局 金融監督第三課(青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階)

“昭和の仙台”8ミリで楽しむ茶会

昔の仙台の映像を見ながら、お茶とお話を楽しむ会です。

対象 どなたでも(定員30名、要申込)

時 9月19日(水)15:00~17:00

場所 六郷市民センター和室1(若林区今泉1-3-19)

申込方法 電話、FAX、Eメールにて

※参加無料。定員に満たない場合は当日参加可

☎ 022-387-0656 NPO法人20世紀アーカイブ仙台

FAX:022-387-0651 Eメール: npo@20thcas.or.jp

深沼海岸清掃ボランティア募集

深沼海岸の歴史のお話を聞いた後、深沼海岸の清掃を行います。参加するボランティアを募集中です。

時 9月16日(日)9:00~14:00

七郷市民センター1階和室集合(若林区荒井字堀添65-5)用意するもの/軍手、携帯ラジオ(お持ちの方)、昼食。ケガ対策・熱中症対策などは各自お願いします

※ボランティア保険は要事前加入

☎ 090-3385-5567 NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンター/KIDS NOW(長山)

下荒井育児サロン「お茶を飲みにきてください」

育児の楽しいこと、大変なことを、お茶を飲みながら話してみよう。きっと元気のもとを持ち帰れますよ。

対象 0歳~就園前の乳幼児と保護者

時 9月14日(金)10:30~11:30

場所 下荒井公会堂(若林区荒井字新屋敷9)

持ち物 保護者のお茶飲み用カップ ※申込不要、直接会場へ

☎ 022-282-1111(内線6772)「輪っ!かばやし子育て応援団」事務局(若林区家庭健康課内)

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	開催日	時間	会場	内容	担当	問合先
母と子の健康相談	9月28日(金)★	13:30~14:30	若林区役所3階	育児の心配や母と子の健康についての相談 ★保健センターでの歯科相談は隔月で行います	保健師・栄養士 ★の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課 内線6772
	9月11日(火) 10月9日(火)★	9:30~10:30	七郷保健センター			
	10月5日(金)	9:30~10:30	六郷保健センター			
子どものこころの相談室	9月13日(木)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	
健康づくり講話	9月19日(水)	13:30~15:30	若林区役所3階 健康教育室	「からだところのストレスケア(要予約)」	フリーインストラクター	家庭健康課 内線6785
健康づくり相談	9月19日(水)	15:00~16:00	若林区役所3階 健康教育室	健康相談	保健師、栄養士、歯科衛生士	
こころの健康相談	9月12日(水) 9月20日(木) 9月25日(火) 10月4日(木) 10月10日(水)	13:30~16:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、 精神保健福祉相談員、 保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時 (土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階窓口 など	震災によるストレスやこころの相談		
高齢者総合相談	随時 (土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階窓口 など	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	障害高齢課 内線6307

こころ編

悲しくも業縁のままに

地震も津波も集中豪雨も竜巻も、ただの自然現象です。それが災害と化するのにはそこに人間が住むからです。海に出て漁を生業とする人は海辺に住み、農耕に従事する人は氾濫の度に田畑が肥える河川の傍に住みます。その方が便利だからです。かつて先祖がそのために犠牲になつたといふ史実があつたとしても、津波や洪水が怖いからと云つて山側の高台に暮らすわけには行かないのです。

田舎の寺は、どこもそんな先祖伝来の土地に不条理さを感じつつも、慎ましかに暮らす民衆と共にありました。寺は今、被災された方々の心の、そして身の支へになつてゐるでせうか。寺族の三人もが津波にさらはれ、お檀家衆も沢山亡くなり、本堂も庫裏も墓所も跡形もなく消失。それでも四箇月後のお盆には、プレハブの仮説教所を急ぎ建てて法要を勤め上げた真宗寺院が気仙沼にあります。日頃の親密な檀家と寺の関係が目には浮かびます。皮肉にも、現存してゐる日本仏教のほとんどが天災や疫病や内戦や大火や飢饉で、我が国の歴史上最悪と云はれた鎌倉時代にこそ誕生してゐるのです。

徳照寺 住職 佐藤和丸

佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4		
			C		
5		6	7		
	8		B		9
10	11			12	13
14			15		
	16			17	18
	E				D
19			20		
		A			

タテのカギ

- ①これから収穫の秋。宮城米の代表的な品種といえば
- ②ネコが研いだり、ひっかいたり
- ③カレー粉の原料、黄色の染料、漢方薬などになる草
- ④かつての大河ドラマ『〇〇の木は残った』のゆかりの地である柴田町。町の木も、〇〇の木
- ⑦仙台市の熱気あふれる一大イベント、みちのく〇〇〇〇まつりは、10月6～7日の開催
- ⑧アルカリ性の反対は、〇〇性
- ⑨角田市の木。堅くて、ドングリの実がなります
- ⑩塩釜水産物仲卸市場内で食べる、マイ〇〇〇〇丼は観光客に大人気
- ⑬仙台市の木。定禅寺通りにある並木でおなじみ
- ⑮俗に、〇〇〇は損気
- ⑰〇〇字は歓迎され、〇〇星は嫌がられます。同じ色が入りますが

ヨコのカギ

- ①〇〇〇〇は発明の母
- ④蔵王町で梨と並ぶ名産のくだもの。町の花も、〇〇の花
- ⑤9月15～16日、〇〇市で開催される、とよま秋まつり
- ⑥カレンダーを日本語で
- ⑧宮城県ゆかりの民謡、祝い唄。『〇〇〇時雨』
- ⑩空母といえば、航空〇〇〇のこと
- ⑫9月1～2日に鳴子温泉郷で開催された、全国〇〇〇祭り
- ⑭柔道などで聞かれる、「〇〇に始まり〇〇に終わる」
- ⑮クルマや自転車でパンクするのは?
- ⑰渡る〇〇〇に鬼はない
- ⑰秋の代表的な花。富谷町の花にもなっています
- ⑲宮城県が国内最大の養殖産地。食卓でもおなじみの〇〇鮭
- ⑳名取駅から仙台駅を見た方向

前回のこたえ

A ス B イ C カ D ワ E リ

でした。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
オ	コ	ナ	イ	シ	ソ														
5	ド	ウ		6	カ	7	オ	ス											
8	リ	ノ	ウ			10	コ	ウ	11	ヒ									
		12	ト	ミ	13	ザ	フ												
14	ハ	15	リ		イ		17	ナ	シ										
	ナ		16	コ	イ	17	ウ	タ											
18	ビ		カ	ン		19	シ	ネ	マ										

編集後記

エアギターってご存知ですか? エレキをギンギンに弾く真似をするアレです。その全国大会で「けんこうコラム」次号執筆者の入江さんが5位に入賞しました! おめでとうございます! カッコイイ! (きうち)

8月は各所で祭りラッシュ。それぞれお邪魔しました。ソフトドリンクでのどを潤すも、目は皆さんの持つビールに釘付け。帰宅後、豪快に喉を鳴らしたのは言うまでもありません。(佐藤)

●●●● お住まいを移転される方へ ●●●●

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後もひき続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL: 022-390-5755
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mwww.or.jp